

2 研究会

(1) 特別講演会

17年度には、新たに複雑な課題に対応するため、幅広い分野から外部専門家を客員研究員として迎えた。そして、各客員研究員が、それぞれ得意とする分野から農林水産分野に係る政策提言を行う講演会「新たな視点からの政策提言シリーズ」を7回開催した。

年月日	タイトル	報告者	開催場所
17.11.9	農業環境政策の形成と展開	原 剛（農林水産政策研究所客員研究員 / 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）	分室
11.14	人口減少高齢社会における農業の課題	松谷 明彦（農林水産政策研究所客員研究員 / 政策研究大学院大学教授）	分室
12.7	農を中心とした地域経済の活性化と地域循環の構築	小泉 武夫（農林水産政策研究所客員研究員 / 東京農業大学応用生物科学部醸造科学科教授）	分室
18.1.20	市場経済は万能か？——非営利組織の役割と限界——	中島 隆信（農林水産政策研究所客員研究員 / 慶応義塾大学商学部教授）	分室
2.8	環境と農林漁業の相克——環境史の視点から——	石 弘之（農林水産政策研究所客員研究員 / 北海道大学公共政策大学院教授）	分室
2.16	現代の『農』のヴィジョン——財政学からのアプローチ——	神野 直彦（農林水産政策研究所客員研究員 / 東京大学大学院経済学研究科教授）	分室
3.1	循環型社会と農業・農村	植田 和弘（農林水産政策研究所客員研究員 / 京都大学大学院経済学研究科及び地球環境学堂教授）	分室

(2) 定例研究会

平成 17 年度に開催された定例研究会は 33 回である。昭和 22 年 4 月 1 日の農業総合研究所開所以来、通算 2010 回である。

回次	年月日	タ イ ト ル	報 告 者	開催場所
1978	17. 4. 12	ベトナムの農協	岡江 恭史	本所
1979	4. 26	集落営農の組織形態に関する研究——労働力構成を中心として——	金子 いづみ (日本学術振興会特別研究員)	"
1980	5. 10	野菜の用途別需要の動向と対応課題	小林 茂典	"
1981	5. 17	酪農セクターにおける差別価格制度の貿易への影響について	空閑 信憲	"
1982	5. 31	滋賀県「魚のゆりかご水田」による水田の多面的機能評価——ニゴロブナからの考察——	田中 淳志	"
1983	6. 7	中国の食料需給政策と国内比較優位	伊藤 順一	"
1984	6. 14	米政策改革下における地域営農システム構築の現状と課題	渡部 岳陽	"
1985	6. 21	豪州GMO規制の動向と課題	渡部 靖夫	"
1986	6. 28	韓国における農業部門の経済的位置	樋口 倫生	"
1987	7. 5	中国における燃料エタノール推進計画の動向と課題	小泉 達治	"
1988	7. 12	人的資本と経済成長——農業・非農業の視点——	川崎 賢太郎	"
1989	7. 26	担い手型農業公社の現状と展開方向——北陸中山間地域を中心として——	仁平 恒夫 (北海道農業研究センター)	"
1990	9. 6	日本農業のグランドデザイン	薦谷 栄一 ((株) 農林中金総合研究所)	分室
1991	9. 13	地域ブランド研究の論点——フランスの地理的表示産品を事例に——	須田 文明	本所
1992	9. 20	トレーサビリティにおける情報の非対称性問題	高橋 克也	"
1993	9. 27	消費社会と“食のリテラシー”——求められる食育の視点——	大村 直己 (食育コーディネーター)	分室
1994	10. 7	地域活性化の視点からみた退職(アメリティ)移動——研究動向と日本における展望——	田原 裕子 (國學院大學)	"
1995	10. 13	環境経済学と政策評価	岡 敏弘 (福井県立大学)	"
1996	10. 18	“望まない将来”について共通認識を得る新たな合意形成手法の検討	高橋 祐一郎	"
1997	11. 1	企業視点からの地域貢献——まちづくりネットワークの活動から——	小池 貞三郎 (特定非営利活動法人まちづくりネットワーク)	本所
1998	11. 8	食料生産基地移動と環境変化	明石 光一郎	分室
1999	11. 15	米国ニューヨーク州の生乳生産コストに関する実証分析	勝又 健太郎	本所
2000	11. 29	最近の人口移動の動向とその要因	松久 勉	"

回次	年月日	タイトル	報告者	開催場所
2001	17.12. 6	2003 年共通農業政策改革と農業環境政策の方向——ドイツの事例から——	市田 知子	本所
2002	12.13	アジアの開発途上国における食料需給の変動と展望	井上 莊太郎	〃
2003	12.20	生物多様性 (biodiversity), インテグリティ (integrity), 健全性 (health) の違いと, 各国の水環境評価指標	田中 淳志	分室
2004	18. 1.17	中国郷鎮企業の株式合作制に関する制度的考察	河原 昌一郎	〃
2005	1.24	発展途上国の農産物市場の形成における産業集積の役割——西アフリカ, ガーナの精米市場の事例——	櫻井 武司	本所
2006	1.31	アメリカの次期農業法をめぐる状況——経営安定対策と環境対策を中心に——	吉井 邦恒	〃
2007	2.14	食品流通コストのマクロ分析	薬師寺 哲郎	〃
2008	2.28	アメリカにおけるGMO関連政策をめぐる最近の動向——規制, 援助, 地方政府——	立川 雅司	〃
2009	3.14	農業経営者の経営者能力に関する一考察——認定農業者を対象として——	鈴村 源太郎	〃
2010	3.28	産消提携の展開と地域の再生	佐藤 孝一	〃

(3) 特別研究会

本所及び分室において、特別研究会を計 8 回開催した。

年月日	タイトル	報告者	開催場所
17. 9.16	【交渉戦略】 ブラジルは農業国？——その多様な側面と通商交渉の原動力——	堀坂 浩太郎（上智大学）	分室
10. 6	【交渉戦略】 先進諸国の農産物輸出政策の分析と今後の展望	鈴木 宣弘（九州大学） 小林 弘明（和光大学） 伊藤 正人 空閑 信憲 福田 竜一	〃
10.20	【先駆者・支援】 環境保全型農業経営体の特徴とその形成条件	胡 柏（愛媛大学）	〃
10.27	【多面的機能】 持続的農業とアメリカ農業法	Larry L. Burmeister （ケンタッキー大学）	〃
18. 1.18	【ライフスタイル】 都市農村交流の展開と課題	榊潟 俊子（淑徳大学）	本所
3.16	【多面的機能】 韓国のグリーン・ツーリズムの最新動向——農村資源を活かした地域活性化の最近の試み——	朴 時炫（韓国農村経済研究院 農村発展研究センター）	分室
3.23	【農業バイオ】 農業バイオテクノロジーをめぐる政策と倫理	Paul Thompson （ミシガン州立大学）	〃
3.24	【農業バイオ】 中国における遺伝子組換え技術等の進展，規制と農産物貿易	顧 国達（浙江大学）	〃

(4) 講演会

政策研究の向上に資する国際的な知見や有用な情報を得ることを目的として、国内外の著名人を招き、講演会を開催した。

年月日	タイトル	報告者	開催場所
17. 7.13	アフリカにおける食料安全保障	Mafa Chipeta (FAO技術協力局政策支援部長)	分室
9. 2	OECDにおける農産物貿易問題に関する主な研究活動について	Ken Ash (OECD食料農業水産局次長)	分室
9. 5	WTO農業交渉について	吉村 馨 (農林水産省大臣官房国際部長)	分室
10. 5	農地制度の改正と農業への新規参入の状況について	角 好陸 (農林水産省経営局経営調査官)	分室
10.12	農林水産業協力について	井上 龍子 (農林水産省大臣官房国際部国際協力課長)	分室
11. 2	FAOの長期食料需給見通し——世界の食料安全保障を念頭に——	Hartwig de Haen (FAO経済社会局長)	国連大学
11.16	チリのFTA戦略	Alberto Valdes (元世界銀行上級経済顧問)	分室
11.22	OECDにおける農業と環境——これまでの成果と今後の課題——	Wilfrid Legg (OECD食料農業水産局政策環境課長)	分室
11.30	経営所得安定対策等大綱について	佐々木 康雄 (農林水産省大臣官房企画評価課参事官)	分室
12.14	FAOスマトラ沖大地震及びインド洋津波被害復興支援の現状と報告	遠藤 保雄 (FAO日本事務所所長) 吉村 優子 (FAO日本事務所企画官)	分室
18. 1.30	米国におけるバイオエタノールへの取組みと課題	Ralph Groschen (米国ミネソタ州農業部環境担当官) S. Richard Tolman (全米トウモロコシ生産者協会会長)	分室
2.22	高騰するエネルギー価格の国際農産物市場への影響	Josef Schmidhuber (FAO経済社会局世界展望研究ユニット上級エコノミスト)	分室
3.22	カナダにおける農業環境指標の開発・利用及び生物多様性保全の取組み	Alexandre Lefebvre (カナダ食料農業省農業環境指標プロジェクト総括担当) Steven K. Javorek (カナダ食料農業省農業環境指標プロジェクト首席サイエンティスト(生物多様性担当))	分室

(5) 研究成果報告会

当所における研究成果を行政部局，マスコミ，一般の方々に広報するため，研究成果報告会を開催している。

年月日	タ イ ト ル	報 告 者	開催場所
18. 5.19	野菜作農業の展開過程	香月 敏孝	分室

(6) おにぎり・おむすび懇談会

当所分室において，昼休み時間に参加者が弁当等を持参して集まり，食事をしながら自由な立場で議論することをねらいとして開催している。平成 17 年度は，以下のとおり開催された。

年月日	タ イ ト ル	報 告 者	開催場所
17. 6.22	農業と環境に関するOECDの活動——農業環境指標の開発・利用の現状と見通し——	舟木 康郎 (OECD食料農業水産局政策環境課)	分室
18. 1.26	FAO食料農業白書 2005: 農業貿易と貧困——貿易は貧困を改善できるか? ——	遠藤 保雄 (FAO日本事務所所長)	分室